

2020年3月31日付 韓国環境部プレスリリース

京畿道の野生イノシシからASFウイルス検出（野生イノシシ468-470例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1362380&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月29日に京畿道（キョンギド）坡州市（パジュシ）芳木里（パンモンニ）民間制限線内で発見されたイノシシ死体3個体からASFウイルスが検出されたと3月31日明らかにした。

国立環境科学院は3月31日死体3個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）184件、漣川郡（ヨンチョンゲン）178件、坡州市（パジュシ）85件、鉄原郡（チョルウォンゲン）23件、合計470件のイノシシASF陽性事例となった。

野生イノシシASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は「今回陽性になった死体は全て耕作活動をする農業従事者が山と畑周辺で発見したものである。住民の方は死体発見時、触ったり接近したりせずに速やかに申告してほしい」と述べた。

以上